

2013/6/28

MiTA

Vol. **48**

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association



特集

『生き活き岡山の実現』 ～国際拠点港湾水島港の取り組み～

Contents

- ◎水島港東京セミナー開催
- ◎日本エアロフォージ工場完成
- ◎水島港での規制緩和
- ◎玉島西航路の拡幅
- ◎ガントリークレーン3号機設置



『生き活き岡山の実現』 国際拠点港湾水島港の取り組み

水島港セミナーを開催!!

平成25年3月15日東京都港区海岸のアジュール竹芝において、水島港セミナーを開催し、伊原木岡山県知事(MITA会長)自らプレゼンテーションを行いました。

セミナーには、121の団体・企業等から260名を超える多くの方々の参加をいただきました。

冒頭、MITA会長として壇上に立った伊原木知事は、「これまでに築き上げられた成果や基盤を生かしながら、本県をより魅力的な地域として発展させ、全ての県民が明るく笑顔で暮らす『生き活き岡山』の実現を目指すため、まず産業を振興して岡山を元気にしなければなりません。岡山県のGDPは、第一次産業が約1%、第二次産業が約30%、第三次産業が約70%となっている。第三次産業そのものを振興させるのは大変難しく、工業をしっかり振興しなければなりません。そのためにも、県工業出荷額の50%以上を占めている水島・玉島を、今以上に元気にしたいと考えている。今後も港湾機能の強化を最重点課題として取り組み、その効果をできるだけ早く水島港を利用する方々に還元していきたい。本日のセミナーでは、水島港の取り組みや魅力をしっかりと皆様にお伝えし、これからもより一層、水島港をご利用いただける機会にしたい。」と挨拶しました。



開会挨拶をする伊原木知事

続いてのセミナーで伊原木知事は、「生き活き岡山の実現〜国際拠点港湾水島港の取り組み〜」と題して水島港の最新状況等を紹介し、港湾管理者として物流網強化、国際バルク戦略港湾政策・総合特区制度の活用・企業誘致への取り組みについて、説明しました。

伊原木知事は、「中四国のクロスポイントに位置している水島港には、週16便、15航路の外貨定期コンテナ船が就航し、コンテナ取扱量は年々増加している。2011年には過去最高の18万TEUを記録した。

国際コンテナターミナルでは、コンテナ貨物の物流需要の増大に対応するため、機能強化に取り組みしており、ガントリークレーン1基を増設して3基体制とし、また、水深12mの耐震バースを本年中に供用開始することで10m超の岸壁が3バース体制となる。さらに、4号埠頭の外貿コンテナ貨物を国際コンテナターミナルに集約することで、より効率的な荷捌きと荷役時間の短縮が期待される。」など、水島港の優位性を強くアピールしました。



セミナーで説明する伊原木知事



セミナー資料

さらに、水島港が平成23年5月に国際バルク戦略港湾に穀物と鉄鉱石の分野で選定され、同年12月には総合特区指定を受けたことに触れ、パナマックス船やポスト・パナマックス船の満載入港に対応するための岸壁・水深整備や、港内交通管制や錨泊可能船舶の大型化、関税法・とん税法・特別とん税法の緩和を実現したことをPRしました。

また、玉島ハーバーアイランドへの立地がスムーズに進むための支援制度についてもPRしました。



レセプション

セミナー後には、逢沢一郎衆議院議員、池田道孝衆議院議員、橋本岳衆議院議員、平沼赇夫衆議院議員、江田五月参議院議員、片山虎之助参議院議員、神宝謙一岡山県議会議員、中塚周一岡山県議会議員が出席される中、レセプションを開催し、中谷庄吉中谷興運(株)代表取締役会長、武内一雄水島港運協会会長にご挨拶をいただき、水島港の利用促進について、首都圏の船主や荷主企業など多数の関係者と和やかな雰囲気の中で意見交換を行いました。

日本エアロフォージ(株)工場完成! 社長に思いを聞く



本社・工場(玉島ハーバーアイランド)



日本エアロフォージ株式会社 代表取締役社長 佐藤光司さん(役職名は、取材時のものです。)

岡山県の海の玄関である水島の沖合に県が造成整備した「玉島ハーバーアイランド」。この一画の敷地約5万㎡に、日本エアロフォージ株式会社(以下Jフォージ)の新工場が完成し、平成25年4月24日に竣工式典が開催され、ついに操業を開始しました。世界最大級となる5万トンの大型型打ち油圧鍛造プレス^{※1}を導入し、これにより国内で初めてレアメタルを用いた大型鍛造品の製造が可能になりました。本格的な稼働の前に、佐藤光司代表取締役社長(思いを伺いました。)

(平成25年5月7日取材)

玉島ハーバーアイランドへ立地を決めた理由は?

世界一の大型プレス機をもつ工場の場合、小さな工場のように世界各地に工場を造つてリスクを分散させることはできません。工場の安全性をアピールするために、地震や津波などの自然災害が少なく、想定される津波による浸水の恐れがない敷地の地盤高があり、天災に強い場所であることをまず重視しました。

次に、弊社が提供を受ける素材メーカーの拠点が兵庫県と島根県にあり、岡山県はその中央に位置しているため、県がアピールしている「交通の結節点」という

言葉のとおり、地の利を最大限に生かすことができる場所であったことです。また、大型型打ち鍛造プレスの組立部品は海上輸送でしか運べず、港のそばに立地ができることも必須であったため、この場所が最適でした。

ただ、工業用水・電気・ガスなどの不安などの課題があったことも事実です。こうした課題をクリアするためにコストは掛りました。それでも先に挙げた理由が魅力的だったこと、岡山県と倉敷市から熱心な誘致を受け、立地助成の条件も良かったこともあり、玉島ハーバーアイランドへの立地を決めました。

貴社と県内企業との連携や取引が期待されているが?

弊社では、素材メーカーからチタン合金、ニッケル合金などレアメタル素材の提供を受け、大型型打ち鍛造プレスで鍛造加工し、素材メーカーに戻す工程を担っています。そのため、弊社から直接発注する機会が少ないのですが、鍛造後の機械加工の段階での仕事が増える可能性があります。

ただし、受注するためには、各企業がJIS Q 9100^{※2}の認証を取ることは当然として、品質、技術力をより向上させ、重工メーカー

に認められる必要があります。いかにキラリと光るものを持ち、チャンスをつかめるかにかかっています。これからも積極的に情報発信を行い、連携や取引の機会を提供していきます。

今後、玉島ハーバーアイランドへの航空機関連企業の新規誘致に求められることは?

これまで輸入に頼っていた鍛造品を国内で製造できるようにすることは大きな変化です。これに合わせて鍛造の前後の工程も国内で行い、一連の流れを垂直的に行うことができれば理想的。航空機はモデルチェンジが少ないため、一度受注すれば25〜30年継続したビジネスが可能になります。そのためにも、航空機製造の全体の流れを理解した上で、戦略的な誘致活動を行うことが求められるのではないのでしょうか。

最後にひとこと。

県や市には、種々迅速に対応していただき、本当にありがたく思っています。国内は無論、海外からも弊社に多くの注目が集まっている今、将来的にものびのびと新たな枠組みとして第2・第3のJフォージが生まれるよう、この地で成功事例となりたいですね。

※1:金属素材を金型の中で圧縮し、鍛造を行う装置。 ※2:航空機部品やジェットエンジン回転部品など、最長5mに及ぶ鍛造品。 ※3:航空宇宙産業における品質マネジメント規格。

玉島西航路の航路拡幅



岡山県は、三菱自動車工業㈱の生産拠点であるとともに、近年は、他社の完成自動車についても、中四国の国内配送拠点になりつつあります。

これを受けて、玉島ハーバーアイランド4号埠頭の一部を自動車専用ターミナルとして位置付けるとともに、近年大型化が進む自動車運搬船の入港に対応するため、当ターミナルへ接続する玉島西航路の航路幅を150mから180mに拡幅し、平成25年4月から暫定供用を開始しました。

これにより、国内最大級となる169mの自動車運搬船が航行可能となり、「日王丸」が4月5日に初入港しました。また現在、これらの大型船が航路内で行き会いが可能となるよう、さらに航路幅を180mから250mへ拡幅する浚渫工事を進めています。



ガントリークレーン3号機設置工事完了



平成14年度に供用を開始した外貿コンテナを取り扱う国際コンテナターミナルでは、水深10mの2バースにガントリークレーン2基を設置していますが、国が行っている水深12mの耐震強化岸壁整備とあわせて、荷役作業効率の向上と円滑な港湾物流輸送を実現するため、このたび3基目となるガントリークレーンを設置しました。このガントリークレーンは、従来の約2倍となる80tの吊り上げ能力があり、これまで海上クレーン船等を用いていた重量物の荷役が可能になります。

